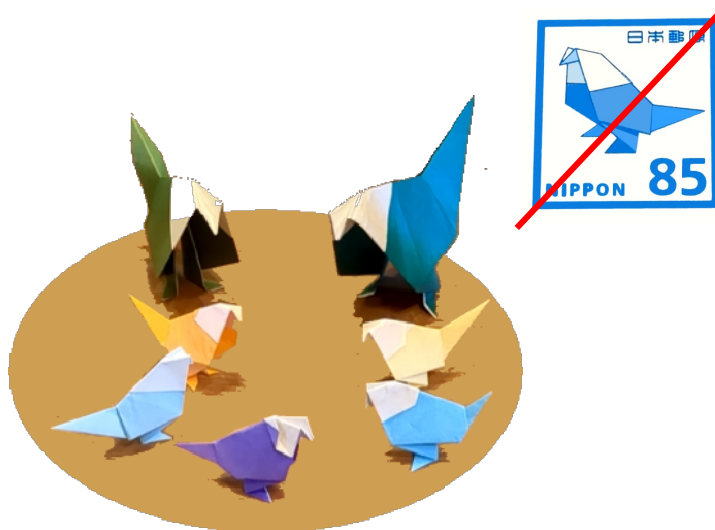


立体小鳥の折り方

5Jan2026

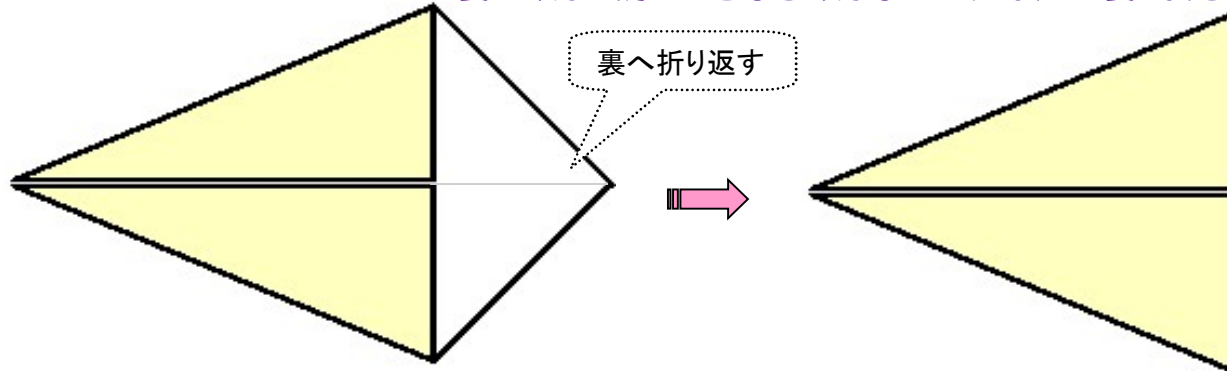
友人からの葉書き、「今は85円か」と思ったら、なんと、絵柄が折り紙の小鳥でした。そこでこれをなんとか折ることにしました。折り紙の現物がなく、図だけだから結構迷いましたが、何とか折ることができました。しかし、折った小鳥たちがすぐに転ぶという難問にぶつかったのです。これもコロンブスの卵で、自分の勝手な思い込みが問題を作っていたことに気づいた次第、解決できました。たくさん小鳥を折れば、『小鳥遊(たかなし)』の平和な風景が広がります。



① 折り紙の裏に置き、中心線を谷折りでつける。

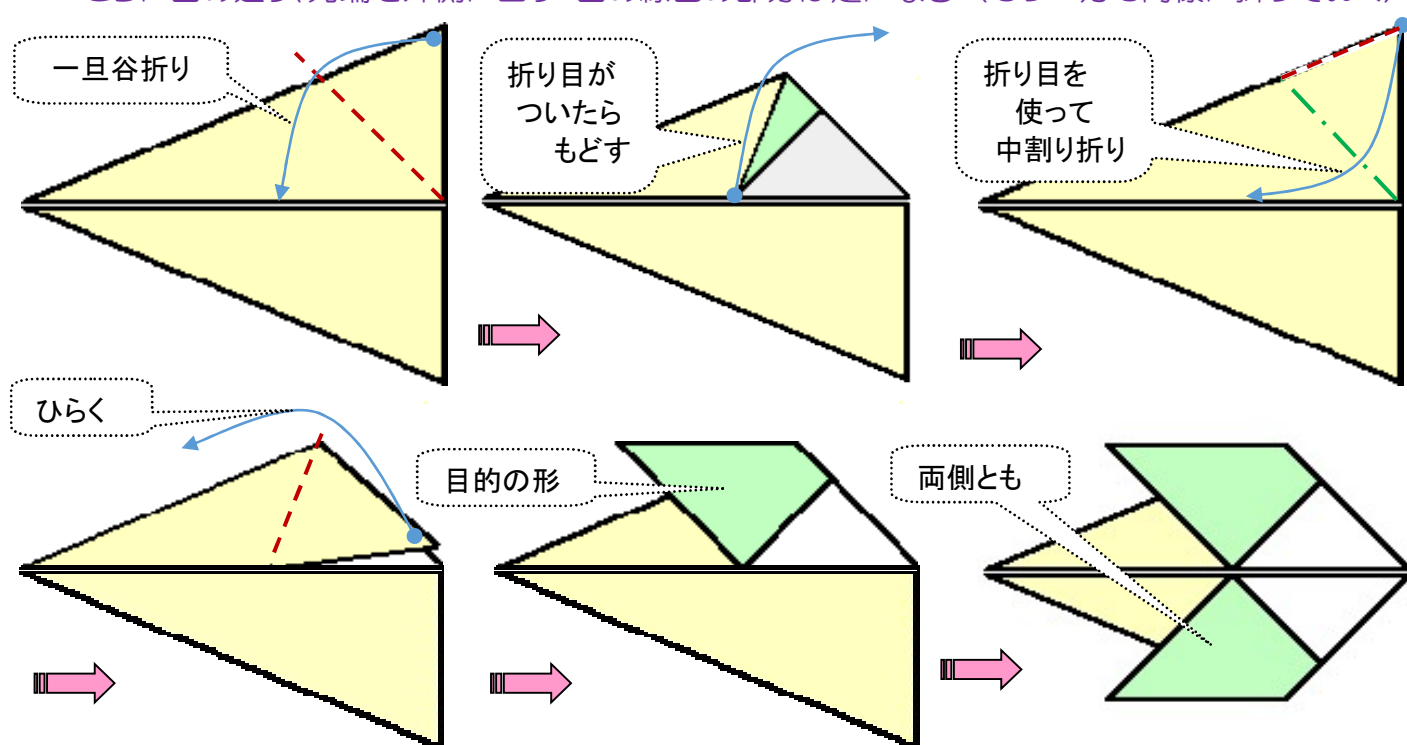
ついで図の通、両側から中心線に向けて折り(左図)、

裏の部分は鳥の首となる部分なので、谷折りで裏に折る(右図)。

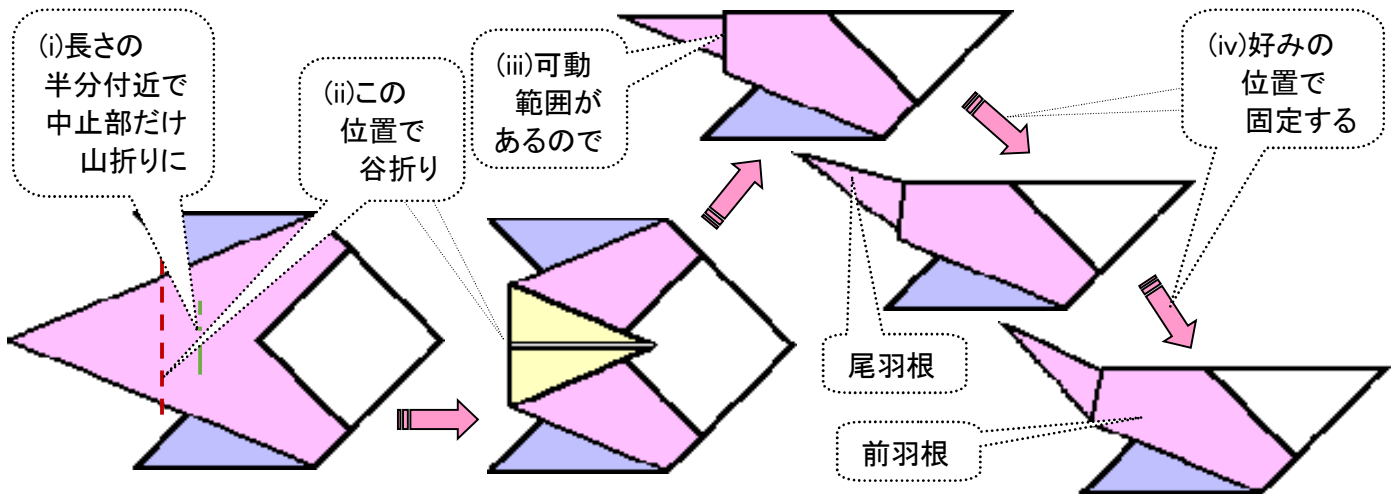


② 図のように場所の折り目を付け、次いで「中割り折り」の要領で一旦先端を中に入れ、

さらに図の通り、先端を外側に出す。図の緑色の部分は足になる。(もう一方も同様に折っておく)

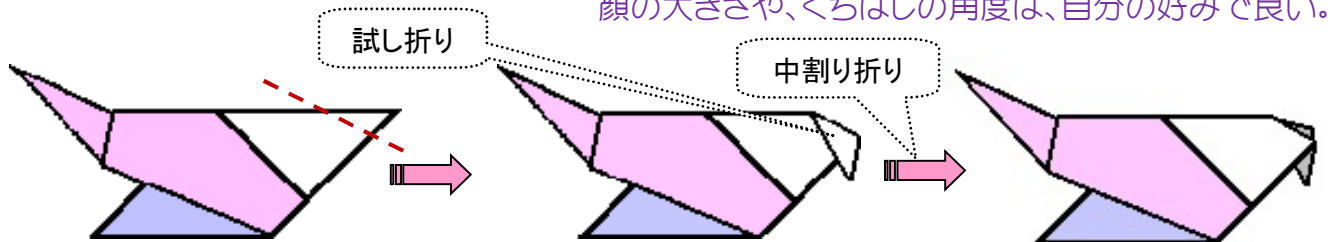


- ③ ②を裏返し、前羽根と尾の間に「谷割りエビ折り」の要領で溝を入れる。そのために (i)長さの半分付近で中央を狭く山折りの折り目をつけ、(ii)その約 1cm(馴れると要領がつかめる)左側に完全な谷折りの折り目をしっかりと付け、(iii)図のように中心線に沿って半分に折ると、可動範囲を持った状態で尾羽根ができるので、(iv)自分の好みの尾の角度でしっかりと折り目をつけ固定する。



- ④ 首から上の白い部分で「中割り折り」で頭を作る。図のように白い部分の約半分あたりで谷折りにして頭の感じを試し折りする。良ければ、その位置で「中割り折り」により固定する。

顔の大きさや、くちばしの角度は、自分の好みで良い。



- ⑤ 最後に、足は下図の通りに片足について 1 ヶ所折るだけで仕上がりますが、これが意外と難しい。折る操作自身は簡単なのですが、なにも考えずに折ると、転ぶ鳥ができるからです。

理論的には、重心が折り紙の足の裏の真ん中に来るように折れば良いのです。そのために、どこをどう折ったら良いのか見極めてください。足の裏が広いときは、重心線から少々ずれても小鳥は転びませんが、足の裏が狭いときは、本当に微妙です。また、足幅が小さくて転ばない小鳥を折る、それが自分だけが知る醍醐味となります。(最大の足幅を決めて、トントン相撲遊びもできます)

